

平成 29 年 3 月 21 日(火)
生徒会会長 井上はるか

防災訓練に寄せて

2011 年 3 月 11 日午後 2 時 46 分、東北、三陸沖を震源地としたマグニチュード 9.0 の大きな地震、東日本大震災が発生しました。6 年前のことです。私達は小学生でした。学校の校庭で不安になりながら、迎えの人を待っていたことを記憶していますか。

東日本大震災の被災額は、16 兆円以上。巨大な津波が町村を襲い、死者、行方不明者は、約 2 万人にも及びました。被災地では、津波によってたくさんの家やがれき、そして人までもが流されそこに残ったのは、ごく一部の建物とヘドロだけでした。皆さんもテレビの報道覚えていますよね。現在でも、福島第一原子力発電所事故による放射能汚染問題などの対応に追われています。

私は先日、練馬防災カレッジ事業主催の防災カリキュラムに参加してきました。これからそのカリキュラムで見聞きした 2 つのことについてお話しします。

最初に、防災カリキュラムには、仙台市立高砂中学校の生徒の皆さんが来て下さり、東日本大震災のお話を伺うことができました。悲しいことにこの震災で生徒の約半数の家が全壊または半壊、床上浸水の被害を受けました。さらに、家族や親せきを亡くした生徒も多くいたそうです。皆さんは、この状況が想像できますか？高砂中学校の生徒の皆さんも当時は小学生でした。とても辛い思いを話して下さいました。

当時は、被災地ほど情報が少なく、被害の大きささえも分からない状況でした。そんな中で、高砂中には 2 千名を超える地域の人々が避難してきました。電話も繋がらず、安否の確認がとれなかったため、とても不安だったそうです。不安のさなか、中学生や高校生は、皆のために動き始めたそうです。私達と同年代の方が被害のさなか、懸命に取り組んだこと、それは、私達にもできることなのです。

次に、防災カリキュラムに参加し、他校の生徒と交流し、考えたことをお話しします。他校の生徒と考えた結果、私達にも簡単に 3 つのことができることがわかりました。

1. 仮設トイレや簡易タンカの組み立て
2. 炊き出しの配給や水の確保
3. 高齢者や幼児のお手伝い

この他にも、ゴミの分別やアレルギー調査など、様々なことができます。東日本大震災を私達は忘れてはいけません。今回の防災訓練で自分たちは何が出来るのか、どう動けば良いのか、一人ひとりが考え学んでいきましょう。



区防災課からの講話



避難所運営委員の方々も集合して下さいました。



本日は、雨天のため体育館でのDVD視聴、区防災課の方からのお話、生徒会長からの報告の3部構成となりました。

避難拠点開設訓練は、今後も続き、生徒自身の力を生かせる訓練をしていきます。